

yagotosanbunko

# 八事山文庫



Simple—真実の花



撮影：佐藤晶子

辰巳 満次郎  
Manjiro Tatsumi

1959年兵庫県生まれ。故父辰巳孝に師事し、4歳で初舞台。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。宝生流18世宗家宝生英雄の内弟子となり、1986年独立。大曲「石橋連獅子」「乱」「道成寺」「翁」など披露。東京大阪間の東海道を中心に全国で公演や実技指導、普及活動を行う。ニューヨーク国連前広場、メトロポリタン美術館ホール、エジプトスフィンクス前薪能など海外公演に参画。2001年重要無形文化財総合認定、2005年度大阪文化祭賞奨励賞受賞。新曲「マクベス」「六条」等の主演、演出も手がける。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人宝生会理事。一般社団法人日本芸術文化戦略機構(JACSO)名誉理事長。大阪の宝生流定期能「七宝会」「満次郎の会」「巽会」「宝生流あまねく会」主宰。

次世代に向けて継承すべき真の豊かさを追求し、八事山興正寺のあり方を長期的な視座で考えていく【ブランドデザイン】構想。そのコンセプトの核となるのが、「eSs Simple-Small-Slow」です。物質的なもののみならず精神性においても、この現代の暮らしてとりわけ見つけ直したいのが、〈Simple〉であること。宗教が始まる以前の、森羅万象に向けた「祈り」をルーツとし、千年以上伝え継がれる日本の古典芸能「能」に息づく、削ぎ落としの美学と重ね、語っていただきました。

Simple—引き算から生まれる、「豊かさ」の本質。

ゲスト：辰巳 満次郎さん（シテ方宝生流能楽師）

聞き手：八事山興正寺住職 西部 法照



INDEX

- 2 [文庫対談] ときにきく Vol.2
- 7 COLUMN 住職 西部法照
- 9 きおくにさくはな —ことばの原風景—
- 10 八事山仏教文化研究所
- 11 一服のたしなみ・たのしみ
- 12 寺ごよみ百景
- 13 Info&Community —すえひろだより—



## Simple—引き算から生まれる、「豊かさ」の本質。

仏教伝来とともに中国から伝わった芸能が、平安時代初期には「猿楽」として寺社の神事や祭礼などで演じられました。室町時代に観阿弥・世阿弥親子によって完成度を高めた能は、信長・秀吉・家康など多くの大名が愛好し隆盛しました。

表現の変遷はあるものの、その原点を手繰れば、「祈り」と「鎮魂」、そして「奉納」としての命が根底にあります。能と狂言による「能楽」は、日本を代表する古典芸能であるとともに、「世界最古の総合舞台芸術」として2008年にユネスコ無形文化遺産にも登録。長い歴史の中で削ぎ落され、磨き抜かれた美学と神秘性は、言葉や時空を超えて人の心を深く魅了します。

### 極限まで削ぎ落とされた至高の舞台芸術として。

西部：現代には様々な芸術や芸能がありますが、その中でも「能」は、いろいろな要素を複雑に組み合わせるのではなく、肅々とした所作や表現の中に喜怒哀楽、森羅万象すべてを表すというところに比類ない深遠さを感じます。〈Simple〉の極致であるからこそ、長く伝え継がれていく芸術、文化と言えるでしょうね。

辰巳：おっしゃる通り、能は表現を迷いが生じて、よけいに生きることが難しくなっているように感じます。

### 思い思いに「足す」自由さが、「人間力」を磨き高める礎に。

西部：仏教においては、形として〈Simple〉を極めていくと最後は円と三角のふたつになると言われています。弘法大師空海が唱えた密教六大思想は、○(水)・△(火)などで象徴されますが、これらを組み合わせたものが五輪塔です。

辰巳：なるほど、勉強になります。能の舞台も、四方を柱に囲まれている

極限まで削って演じるという、いわば「引き算の芸能」です。茶道・華道や書道も含め、江戸時代以前に大成された日本の文化は概ね通ずるところがありますね。根底には禅の思想もあり、奉納や祈りを起源としていることも関係していると思います。

たとえば人を演じる場合は、具体的な説明など「足し算」をしてわかりやすくしますが、神仏への祈りとなれば、基本的なことが伝われば抽象的であっても表現できます。そこが、能が日本の古典の中でも最も「引き算」をする文化であり続



撮影：佐藤晶子

るのみで、観客席との間には幕もありません。歌舞伎や現代劇のようなセットや小道具もなく、その開かれた空間の舞台正面奥に松の木が描かれているのみです。

そこに立つ演者も、主役のシテと相手役のワキ、せいぜいワキの助役ぐらいと限られている。所作の多くも、手足のわずかな動きや重心の置き方、かかとを上げずに移動するすり足など、目立たせない自然の

動きが基本となります。〈Simple〉であるからこそ、わかりやすく足し算した表現よりも、観ている側にいろいろと想像を膨らませていく自由さが生まれるわけです。

西部：何でもありと盛り込まれたエンタテインメントより、個々にプラスして楽しめるというところに豊かな創造性がありますね。

辰巳：そうです。何も無い、あるいは極少なくしたものにいかに足すか

けるという所以でしょう。

西部：日本の文化には、簡素と簡潔の中に美を見出し、合理性をバランスよく表現する〈Small〉かつ〈Simple〉な美意識、そして天地自然への畏敬と感謝を大切にしている

多様化の時代と言われて久しいですが、現代の生活では物質的にも生き方にもあらゆる考え方やデザインが溢れ、「あれもいいこれもいい」と振り回されがちです。その結果、

が大切で、私は「足す」人間力だと思っております。戦国大名たちも、単に芸術鑑賞として能に親しんだわけではなく、高僧から学んだり茶の湯に精進したように、教養以上に人間力を鍛える大切さを見出していたのでしょうね。

### 科学の解明よりも先んじて仏教や能が表した精神世界。

西部：引き算をしていくと、最後に何が残るか。以前の近代科学では解明しきれず行き詰まってしまったことが、最先端の「量子論」によって仏教や東洋哲学の思想と極めて近い論理で語られるようになってきました。

釈迦の根本的な教えは、「全てが全部一物、物も人間も動物も植物もみな同じである」と、実に明晰かつ〈Simple〉です。それらをわかりやすく表現したのが「曼荼羅」の世界です。

\*密教の悟りの境地である宇宙の真理を、仏や菩薩を配列した絵などで視覚化したもの





辰巳…子供達に能を教える際は、正座や挨拶の仕方、足袋の履き方から始まり、「なぜ姿勢を直すのか」などの意味を話しながら、単に行儀作法としてでなく「体感」をさせています。小さい子ほど素直ですね（笑）。やってみることでその方が気持ちいいとか、楽しいとか、何に感謝するかなどを、それこそシンプル

辰巳…一日も夜で終わりではなく、また朝に繋がっていきますものね。  
西部…結論が出なくてもいいから、自分がこうだと感じたままシンプルに生きていけたら、皆元気がでて幸せになれるのではないのでしょうか。小さなサイクルの中では少しばかり止まっても、大きなサイクルの中ではそれなりに動いていけばいいんです。能もゆつくりとした動きもあれば、時に電光石火のようなきらめ



き、ひらめきの一場面もある。そうした時間の長短を超えた世界というものがすべての人生の中にあるのではと思います。  
辰巳…起承転結を持たず、いろいろあつていい。これまさに能に通じます。引き算をすることで自由に足し算をしていくことができるということとは、「個々にどう感じてもいい」

ということ、それが宇宙の理にもかなつてると常々説いてきました。が、あらためて自信を持つことができました（笑）。ますます次世代、時々世代に伝えていくべく、また現場の教育者にもより理解していただくよう努めてまいります。  
西部…素晴らしいですね。ますますのご活躍に期待しております。

### 起承転結を超えた「輪廻」 次世代に伝え継ぎたい思い。

る。そうした神秘の本質が、能の原点にはありますね。

辰巳…まさに、「草木国土悉皆成仏」\*  
\*仏語…草木や国土のように心をもたないものでさえ、すべてに仏性があるから成仏するという意

人間は昔から何かを感じてきたが、ただそれが何であるかはわからなかった。でもそれが実は仏様の教えの中にあつた。その時の科学で説明できないから否定されてきただけ

で、仏教の宇宙哲学や神秘は、千年以上も前にわかつていたんですね。  
西部…そうした神秘世界を、理屈ではなくそのまま表現できる世界が能であると、私は解釈しています。  
辰巳…そうですね。能の作品には、亡者あるいは草木の精、鬼など、この世のものではないものであつたり、相手役のワキには旅する僧侶が多いなど、まさに神仏の世界。お坊さ

に核心を伝えるようにしています。

難しいからといって何でも理解しやすいことしか言わないということではなく、いつか思い出して気づくことも必要です。そうした経験があると、ご先祖様のお話と同様に、いつか思い出し、得心してくれると信じて指導しています。

西部…学びも成長も、全ては繰り返す。現代社会は、教育も含めて「起承転結」を求めすぎますね。結論ありきでこれが正しい、というような。ところがよく考えてみると、すべてに始まりも終わりもなく、人生も宇宙も、起承転結を超えた「輪廻」なのです。



「月の道 薪能」 撮影：新宮夕海

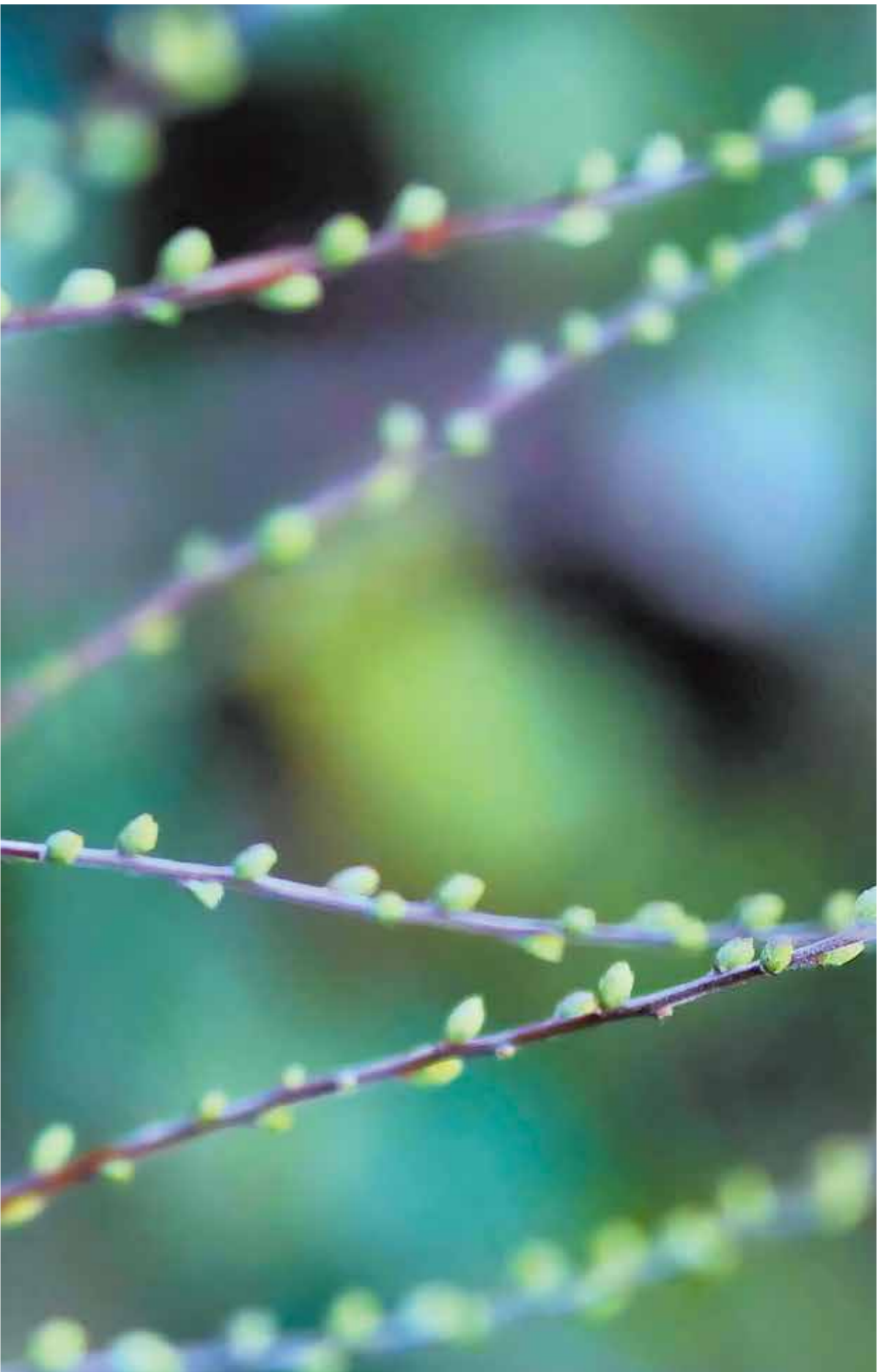
まの夢の中で戦の有様を再現して見せて、許しを請い、祈祷し弔ってもらった後、夜明けとともに成仏していく…。私たちも、そんな物語を単に作り話や神話としてではなく、「森羅万象宇宙の中で命はひとつである」と思いながら演じています。

### 異国の地で抱いた孤独から、 救ってくれる「先祖」の存在。

西部…人生における〈Simple〉については、以前米国にてシアトル神護寺の住職を勤めていた時のことをお話しします。大戦前までの労働移民の世代とは異なり、新一世と言われる日本から来米した若者たちは、高い学歴や技術を身につけながらも、皆同じく孤独に悩むんですね。ではその悩みを何で解決するかというと、実は宗教ではなく、「自分のご先祖」なのです。幼い頃に祖母に手を引かれ、お墓参りや初詣、七五三に行ったなど、家族とご先祖様に接する機会を豊かに重ねてきた人ほど、救われるわけです。

人は孤独に直面した時、「神秘」に助けを求めます。では神秘とは何？というと、実はそんなに難しいことではなく、身近な「ご先祖様」であつたということです。  
辰巳…「おじいさんに夢の中で会えた」というだけでも、救われたりしますね。

西部…そうですね。齢を重ね、布団の中で孤独を感じて泣いた…その一瞬にふつとご先祖からのメッセージのようなものが降りてくる。これが「神秘」というものです。一方で、そうした体験の機会が少なくなり、合理的で便利のいい生活ばかりを求めて過ごしてきた人は、なかなか救われ難いもの。そうしたご先祖とのつながりは、日本を離れてみてこそ、豊かな体験だったと気づかされるのでしょうか。  
辰巳…まさに、夢の中で滔々と語られた追想が朝になつて醒めた時、「ああなた、夢か」と済ませるのではなく、夢の出来事も「まこと」として大切に扱っているのが能です。  
西部…一瞬のことを一時間かけて表現していくこともあれば、一時間のことを数秒で表現することもでき



## 花は紅、柳は緑——シンプルを生きる

八事山興正寺住職 西部 法照

COLUMN

花は紅色をしている、柳の芽は緑色である。当たり前のことであり、自然の姿である。しかもその自然の姿こそがいちばん美しい。

自然界の全ては、それ自体の本来備わっている生命をそのままに表現しているときがいちばん美しくもあり、いきいきと輝いている。花は紅を素直に表そうと咲きほこり、柳は緑の新芽を樹全体から吹き出して輝く。柳は花の紅をうらやましがって赤く染まりたいと思ったりはしないし、花もまた柳の緑を嫉妬したりはしない。

さて、花や柳はこうして自分自

身を素直に表現しているが、私たち人間はどうであろうか、と思ってみるとなかなかそうはいかない。それぞれに異なった個性や特性、持ち味と言うものがあつてこそ美しい、なのに人はどうしてか他人のことはかりが気になって自分を素直に表現できないでいる。

「花は紅、柳は緑」とは、素直な心を自然界の事物に学ぶことであり、自分自身に本来そなわっている尊い生命の存在に気付くことである。あらゆる生きものの中で人間としての生命をいただいているわれわれは、海岸の一握の砂にも満たな

い存在であろうし、その地球上の人間の中で自分はたった一人しかないない、そのたった一人の自分がたった一度の人生をいま歩んでいる。

私たちは、他に惑わされたりして自分自身を見失うときに苦悩が始まる。つらいことや苦しいことが必ずしも苦悩であるとは限らない。それよりもむしろ素直になりきれない自分の心が苦悩なのではなからうか。

昔から狐や狸は人を化かすと言う。狐は美しい花嫁に化ける。狸は村人の姿に化けて木の葉のお札でお酒を買う。しかし、すぐに尻尾を出して見破られ、「何だ、キツネか」

ということになり、タヌキの木の葉のお札もいずれ見破られてしまう。

お話の上で狐や狸が化けるのはさなのであろうか。他でもない私たち人間が、自分を取り繕ったりごまかしたりして化けているのであり、しかもシッポを出して見破られているのにも気がつかないで猶も労苦を重ねている。

本来の姿ほど美しいものはない。生きるという尊いエネルギーを本来の自身の向上につなげたときは美しく輝く。

# 酸漿提灯

ほおずきちやうちん

お盆が近づいて、我が家は何かとお寺への行き来が多くなっていた。それが何なのか、六歳の私には解らなかつた。

その夜はしとしと雨が降っていて、湿気が多い、けれど気温は八月にしては低かったことを憶えている。お寺への届け物を誰が持つて行くかという話になった。「ボクが行く」と言ったのか、おだてられて行くはめになったのか、六歳の子どもには荷の重いお使いに行く事になった。

昭和三〇年の田舎である。傘は番傘、懐中電灯はなく提灯が夜の灯り、届けの荷物は重くはなかつたが、提灯はやたらと重かつた。我が家を出て、お寺への道はかなり急な坂道となっていて、切り通しの土は剥き出しで、赤坂と呼ばれていた。周辺には家はなく、鬱蒼とした竹藪に囲まれている。

恐かつた、帰りたい、手のひらはじつとりと汗がにじんでいる。提灯の蠟燭がゆらゆら揺られて消えそうになる。道には石ころがごろごろ転がっていて、踏んづけて転びそうになる、泣けて来た。

泣きながら、お寺に着いた。檀家の人がたくさん集まっています、楽しそうに酒を酌み交わしていた。届け物を置いて「気をつけてかえりな」を背に、赤坂を降りる。誰か付いて来そうだ、振り返らない。草履の足音だけが小雨に濡れている。

八月、真っ赤な酸漿を見ると、小雨の赤坂の夜、提灯を持つてお使いに行った子どもを思い出す。

きおくにさくはな — ことばの原風景 —



花のエッセイと木版画  
きおくにさくはな  
高北 幸矢 著  
風媒社 2019/1/1  
季節に咲く花に託した、あの頃のあなたへの思い。木版画と文でつづった珠玉のエッセイ集。

## manabox 002 八事山 仏教文化研究所 寺宝Q&A

### 尾張徳川家ゆかりの寺宝（曼荼羅／涅槃図）

研究員・池田洋子さん（名古屋造形大学名誉教授）にお聞きしました。

寺院所蔵の寺宝や文化財、一萬点を超す膨大な古文書や経典など、仏教思想・文化に関する歴史的資料の整理、調査、研究を目的として、2022年（令和4年）に発足した【八事山仏教文化研究所】。調査・研究の対象や経過、ぜひ注目したい寺宝とエピソードなどをQ&Aで紹介いたします。

Q 興正寺所蔵の尾張藩にまつわる資料などで、特に関心を寄せている書画はありますか？

池田…はい。尾張藩二代藩主・徳川光友公が、興正寺の後援にあたり集めたものの中に、真言宗として密教図像が何点かあります。その中に西界曼荼羅や十二天画像などがたいへん良い状態で残されています。元来は受戒の道具ですが、大切に保存されていたのでしよう。

また、尾張徳川家は浄土宗でもあり、光友公寄贈の涅槃図や当麻曼荼羅もあります。

Q 涅槃図からどんな特色が見て取れますか？



涅槃図

池田…涅槃図を最初に描かせたのは、平安時代中期の天台僧で浄土信仰の普及に専心した恵心僧都源信（942〜1017）と言われています。現存する最古の作例は、高野山・金剛峯寺にあります（1086・国宝）。

「頭北面西」＝頭を北、右脇を下、顔を西に向けて静かに入滅されたお釈迦様を、菩薩達や弟子達が囲んでいる様子を描いたものを涅槃図と言います。平安後期は、お釈迦様の

Q なるほど！見比べるとよくわかります。その理由は？

頭あたりに菩薩や弟子、下方の動物も獅子で、悲しみも穏やかに表しています。ところが、鎌倉時代以降、南北朝〜戦国時代と武士の時代へと移ろうにつれ、画面が縦に長くなり、様々な衆生が描かれ、獅子や象の他に龍・迦陵頻伽など空想の生き物などが、どんどん増えて多様になっていくんです。

池田…おもしろいですよね。美術史的にも、江戸の初期と後期では変化します。江戸に幕府を開いた頃は、京都の狩野派が大活躍しており、狩野永徳の孫の探幽が幕府の御用絵師となります。やがてこの探幽が、京の艶やかな雅から江戸風の瀟洒へと、がらりと美意識を変えていきます。桜でたとえるなら八重の紅色の枝垂桜から、ソメイヨシノのすっきりと淡麗な美へ。

こうした変遷が涅槃図からも見て取れます。興正寺所蔵の元禄時代の涅槃図は、「ああ、あるほど、江戸風の美だなあ」と感じさせます。

Q 名古屋城を徳川家康公が築城し、1634年には三代將軍家光公が上洛の折に泊まるべく、尾張徳川家が上洛殿を増築しました。この時の襖絵は狩野探幽が手がけたものですか？

池田…はい、2022年に全襖絵が一挙公開され、探幽の襖絵を含む本丸御殿の1047面の障壁画が重要文化財に指定されています。名古屋はおもしろい地域で、京と江戸という東西の都の往来の真ん中にあつて、体現しています。探幽のこの瀟洒という美意識も磨かれつつ、昭和まで続きます。私たちがいかに長く探幽の美意識に親しんできたか、そんなことにも思いを馳せてしまいます。



講演会  
「興正寺を外護した殿様の御殿絵画」  
日時 5月11日(土)13時30分より  
※有料・要予約

# 寺ごよみ 百景

## 「僧侶が描く曼荼羅の世界」〈大悲胎蔵生曼荼羅〉

真言密教の世界観を図示した曼荼羅には、胎蔵・金剛界の両界があります。そのひとつ「大悲胎蔵生曼荼羅」は、大日如来を円心に四百度以上の仏、菩薩、明王、天部などの諸尊が十二院（グループ）で構成され、「胎蔵」の名のごとく全てを包み込む大きな慈悲の心が描かれています。

2023年、興正寺が所蔵（元禄期）する曼荼羅の写仏を山内の中道圭照僧侶が手がけ、約三ヶ月間をかけて完成。その行程を十二院ごとに十二月で構成し、2024年カレンダーとして制作しました。

「私は伝統的な画法を学んできたわけではありませんが、かねてより仏様と向き合い、自分なりに描くことで何かお役に立ちたいと願っておりました。僧侶として描くことで、



中道 圭照 僧侶

諸仏を深く学び識る機会を得ることができ、ご覧くださる皆さまにもぜひお伝えしていけたらと思います。  
曼荼羅の諸仏それぞれをよく見てみると、お姿や役目など実に多様で、中にはヒンドゥー教の神々や星座までも内包しています。まさにダイバーシティ。自身が生きている世界に置き換えて見てみると、仏様の世界が身近に感じられるかもしれません。（中道）  
本年度は、胎蔵曼荼羅と対である金剛界曼荼羅の写仏にも取り組み、2025年カレンダーでご覧いただく予定です。

### SNS View!

写仏についての情報はSNSでご覧いただけます。  
#八事山興正寺



Facebook



Instagram



一服の  
たしなみ  
たのしみ

## 季節の室礼におもう

桃花の頃、誰にも馴染みのあるお雛様の五人囃子を遠山が描かれた屏風の前にそと座らせました。その瞬間、あどけない顔の童子たちが奏でお囃子が、遠く霞む山々にこだまするよう広がりが、若草色の衣装と相まって春の野に明るく響きわたります。もうそこはいつもの床の間ではなく雛たちの野遊びの宴の席です。見る者の心は空想の世界をどこまでも自由に駆けて行きます。

ところで、「室礼」とはなんでしょうか。

室礼は、日本古来の行事や時節に季節のものを「供えて飾る」ことですが、現代では広く「空間を整え飾る」という意味で使われています。日本の伝統文化である五つのお節句は一月、三月、五月、七月、九月と奇数の月にリズム良く巡ってきます。季節や人生の節目を感じながら、家族が健やかであることへの感謝や祈り、喜びの心を込めて供える

ことは暮らしにメリハリと華やきを与えてくれます。先人たちは五節句以外にも、節分やお盆、十五夜など様々な年中行事の折に室礼をしてきました。

伝統的なものには由来や意味があり、古からの教えをふまえることも大切ですが、少し自由に、感性をいかしてそれぞれの暮らしにふさわしいものを創り出すのも良いかと思えます。季節のお花の一輪を添えるだけでも良いのです。自分の手と心を動かし飾ったもの、作ったもの、こしらえたものは、あたたかくそして特別なものになります。身近にあるからこそ、楽しさや美しさに尽きない何か、いとおしさと呼んでいいような心もちに気づかされます。しつらえるということを通して、美しくいとおしいものと一緒に暮らしていくと、生活自体が変わっていくのではないかと思うのです。

物語のある室礼が生む広がり。さあ、次はどんな世界を旅してみましようか。

八事山の「八」は、裾野がひろかれた縁起の良い末広がりに。自然とまちなか、人と人が、ゆるやかにつながって、豊かな「くらしの根」が広がっています。  
興正寺はその「むすびの広場」。さまざまな取り組みや活動、コミュニティ情報を発信していきます。

昔ながらのご縁日とともに、にぎわいを育んできた名物市。

お寺の楽しみのひとつ、境内に露店が立ち並ぶ縁日。神仏にご縁のある日として、参拝するとご利益が増すといわれる日です。多くの参拝者が集まることから、参道等に屋台や市が並ぶようになったそうです。



興正寺では毎月5日、13日、21日に入口から本堂までの参道に露店が並びます。中でも21日は「興正寺マルシェ」として、クラフトのショップや旬の食材・特産物、占い、整体、お菓子・惣菜や軽食など、オリジナルいあふれるブースやキッチンカーが大集合。平日には60〜80店、土日祝日の場合は100件以上もの出店やステージイベントでおおいに賑わいます。

2011年1月の立ち上げ以来、旧来のご縁日の市とはまた趣を変え、学生の街・若い家族が多く暮らす街・八事の新たな魅力として、興正寺とも連携をしながら、「お寺のある暮らし」をより豊かに提案・発信しています。

折々の自然と、お寺ならではの憩いにあふれたマルシェの魅力。

ひとつひとつのお店を見てみる

## 「ここへくれば良いものがある」 おなじみさんに愛される交流の場へ。

発起人であり主宰の青木大作さん（サロンド・マルシェ/株式会社JAM）、スタッフの坂野みどりさんにお話を伺いました。（以下敬称略）

—— マルシェのテーマ、特色は？  
青木…「環境に配慮したお寺のマルシェ」が当初からのテーマです。三百年間地域の人々に愛され、価値を持って継承されてきた興正寺の地にて、農産物をはじめとした食においても、子育て環境においても、また運営のあり方そのものも、「安全な食品」「伝統の技能」「地域の特性」など、当マルシェを通じて、「不変な価値」を次世代につないでいきたいと考えています。ですから、既製品中



長年の参加ですっかりマルシェの顔となっている出店者さん達も。

と、シヨツピングモールやお祭りとは一味も二味も違う、趣向が凝らされた逸品がずらり。環境や人への配慮、安全性にこだわった産地直送の野菜・米・花、お惣菜、伝統工芸に基づいたアクセサリーやハンドメイドの服&雑貨。厳選した国産米粉やオーガニック原料を使用したパンやお菓子、昔ながらのだんごやせんべい、台湾・タイ・スリランカ・韓国など



のアジア料理にベジごはん、本を片手に楽しめる香り高いドリップコーヒーなどなど。また本堂前の木陰には、占い・整体などのヒーリングゾーンがひろがっています。

何よりも都市部にありながら四季の自然豊かな里山の風情、三百年以上の歴史を重ね、地域に親しまれてきたお寺ならではの憩いと和やかさが、他にはない興正寺マルシェの魅力となっています。



## 健やかな環境とくらしに寄りそいつくり手とつながる”新縁日“。

さんの励みになり、活性のきっかけになっています。

青木…出店者の皆さんが誇りと自信を持って販売して下さることが、お客様の信頼となって、売り上げの安定にもつながっていきます。出店者同士も支え合い、お客様に他の店を紹介するなど、対面の商売にしかない和気藹々としたムードも長年の継続の力ですね。

—— お寺で開催する魅力は？  
青木…やっぱりこの緑豊かな環境と、折りの依りどころであるお寺ならではのなごやかさではないでしょうか。出店する側も、他所のマルシェとは違う心地よさを感じていると思います。

—— 今後チャレンジしてみたいことは？  
青木…お寺は子どもたちが体験しながら学ぶのに絶好の環境でもあります。この地域には大学もありますし、学生たちを巻き込んで子どもたちによる体験マルシェなどもいつかやってみたいですね。坂野…次世代につながるマルシェとして、より地域に寄り添っていけるマルシェをめざしたいと思います。



るかなと嬉しく思います。

坂野…地産地消を活かせる良質の素材を使ってお団子を販売しているのですが、よそよりちょっと高めでも、行列してでも常連さんが買いに来てくださるんです。そうした様子も他の出店者

SNSでも出展者情報をタイムリーに発信中  
個性あふれる出店情報を、毎月の開催ごとに各SNSでアクティブに紹介しています。



Facebook Instagram

お米や野菜もおまかせ！  
手ぶらでお買い物♪

興正寺マルシェの宅配サービス  
「じてんしゃde宅配」

お散歩がてらお立ち寄りいただいた方、思った以上に重いお荷物になってしまった方、高齢の方や妊婦さん等、お買物のお荷物をご自宅までお届けするお手伝いもしています。



●興正寺マルシェ内で3000円以上お買い上げの方に無料宅配をいたします。ぜひご利用ください。  
距離…半径4km以内  
料金…お買物総額が3000円未満の場合は500円となります。

### 興正寺の夏祭り

浴衣で彩るマルシェ！  
毎年8月の開催日は、各店舗スタッフの皆さんにもご協力いただき、浴衣や甚平など、夏祭りの装いで、皆さまをお迎えしています。みなさんもぜひ、この夏は浴衣や甚平で来場ください。

### 興正寺マルシェ

定期開催：毎月21日 10時～15時(雨天決行) 場所：八事山興正寺境内  
※駐車場完備：マルシェ開催日は300円にて興正寺参拝者駐車場がご利用いただけます。  
運営事務局：サロンド・マルシェ(株式会社JAM)  
公式HP：<https://www.koushoujimarche.com/>





【第1号】令和6年4月  
発行所 八事山興正寺

2024・春



八事山興正寺

<https://www.koushoji.or.jp>

TEL 052-832-2801 FAX 052-832-8383



公式サイト